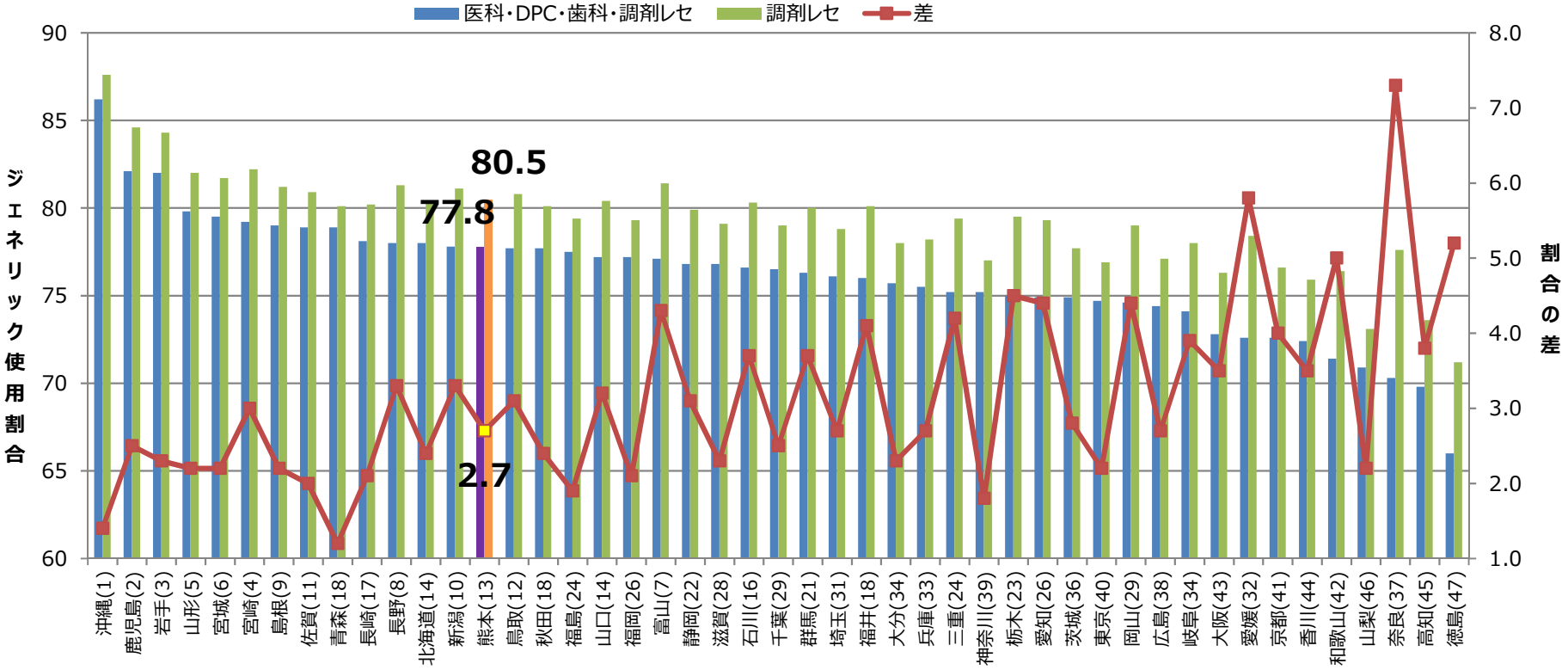
別添２

ジェネリック医薬品使用割合に関する参考資料①

【熊本支部の使用割合の特徴】（平成31年2月診療分）

- 医科・DPC・歯科・調剤レセプトを集計した使用割合は77.8%で、全国順位は１３位
- 調剤レセプトを集計した使用割合は、80.5%で、全国順位は１３位
- 集計に「医科・DPC・歯科」が加わることで、使用割合は2.7%減少する

平成31年2月診療分　ジェネリック医薬品使用状況



※支部名の（）の数字は、調剤レセプトについて集計した場合の順位

Copyright ⓒ Japan Health Insurance Association. All right reserved.

全国健康保険協会 熊本支部
協会けんぽ

別添２

ジェネリック医薬品使用割合に関する参考資料②

●熊本支部の傾向（平成30年4月診療分レセプト・ジェネリックカルテより）

◆ 入院時と外来時においての使用割合の差が大きい
（院内処方による使用割合は67.8%。入院に係る使用割合は80%を超えている一方で、外来時の院内処方の使用割合は67%）、

◆ 院内処方率は28.3%（全国平均23.0%）で、医薬分業が全国と比較して進んでいない
（院外処方率として、医薬品処方数量に基づいて算出。（院外処方医薬品数量）/（院内処方医薬品数量＋院外処方医薬品数量））

◆ 病院の一般名処方率は、診療所の一般名処方率よりも低く、差が大きい
（ 診療所の一般名処方率が59.5%に対し、病院の一般名処方率は33.5%）

◆ 全国と比較して、ジェネリック医薬品を拒否する加入者が多い※
（調剤レセプトの加入者の都合で後発品を調剤しなかったコメントレコードのあるレセプト数）/（一般名処方加算が存在する医科レセプトに、支部、記号、番号、性別、生年月日がヒモ付く調剤レセプト数）

◆ 公費対象者ジェネリックの使用割合が低い（65.6%）
（国公費の記載のあるレセプトを集計対象。（地方単独公費のみのレセプトは集計対象外））

Copyright ⓒ Japan Health Insurance Association. All right reserved.